

イギリスにおける初等地理授業実践の実態 ー現地調査からの知見ー

志 村 喬*

(平成19年9月28日受付；平成19年11月7日受理)

要 旨

日本のイギリス地理教育研究において課題である初等地理授業実践の実態解明を目的として、現地調査を遂行した。公立学校3校、私立学校1校を訪問調査した結果、全ての学校で、教育雇用省・資格カリキュラム局による「単元計画例」が、学校カリキュラムや授業案作成にあたり大きな影響力を与えていた。しかし、その使用は各学校の環境に応じて選択的であり、学校・教師の裁量は大きい。地理学習においては、特定テキストブックのコースブック的使用はみられず、地図学習教材を含め、発達段階に応じた多様な教材が使用されている。さらに、地理科と歴史科の統合など教科横断的なカリキュラム編成へ推移する傾向が、一部公立学校ではみられる。

KEY WORDS

地理教育 社会科教育 初等教育 単元計画例 カリキュラム イギリス

geographical education, social studies education, primary education, Scheme of Work, curriculum, England

1 はじめに

1. 1 本研究の目的

日本においてイギリス¹⁾ 地理教育研究は、戦後継続的に推進されてきた。とりわけ、『ナショナル・カリキュラム地理』が施行された1990年代以降は、テキストブック等の地理教材を個別に取り上げた教材研究に加え、カリキュラム研究が大きく進展し、筆者もカリキュラムに対する現地評価に留意しながら改定内容に焦点をあてて究明してきた²⁾。このような研究史の中、地理教育実践の実態を現地調査を基礎に解明を図っているものは、飯田によるロンドンの中高等学校についての研究³⁾、荒井によるシェフィールドの中高等学校についての研究⁴⁾ のみであり、初等学校に関する臨床的研究はみられない⁵⁾。

したがって、現地学校における地理教育実践を対象とした研究、とりわけ初等教育段階の実践実態解明が課題となっている。そこで本稿は、2005年12月にロンドン（1校）、2006年9月にオックスフォード（3校）の初等学校で遂行した現地調査をもとに、各校の地理授業実態について報告し、上記課題に応えることを目的とする。なお、初等地理教育カリキュラムを含む『ナショナル・カリキュラム地理』施行下の地理教育概要に関しては、参考文献を参照いただきたい。

1. 2 「ナショナル・カリキュラム」制度下の初等地理教育

イギリスの教育制度において初等教育段階に相当するのは、5歳～7歳の学齢段階キーステージ1（以下KS1と表記）と、7歳～11歳の学齢段階キーステージ2（KS2）である。1991年の「ナショナル・カリキュラム」施行以前、初等教育における地理は、歴史と統合された人文科、あるいはその他教科とともに特定の主題の下に統合された横断的な学習であるトピックワークとして学習されることが多かった⁶⁾。

しかし、現行「ナショナル・カリキュラム」制度は、地理科を歴史科とともに必修教科である基礎教科と規定し、『ナショナル・カリキュラム地理』の内容を、初等教育で確実に教授することを求めている。そこで、教育雇用省（DfEE: Department of Education and Employment）・資格カリキュラム局（QCA: Qualifications of Curriculum Authority）は、各学校のカリキュラム編成の参考として「単元計画例（SoW: Scheme of work）」⁷⁾を作成・公開している。単元番号1から単元番号25までの25単元から構成されているこの「単元計画例」に関しては、カリキュラム次元での分析研究がある⁸⁾。しかし、「単元計画例」が学校現場でどのように活用されているのかまでは言及されていない。したがって、現地調査においては、「単元計画例」の扱いが一つの注目点となる。この点に留意しながら、以下では、「ナショナル・カリキュラム」が法的に適用される公立学校と、適用除外である私立学校に分け、実践実

*社会系教育講座

態を解明する。

2 公立小学校における地理授業実態

2. 1 アペルトン・プライマリースクール

アペルトン・プライマリースクールは、オックスフォード中心市街地から南西約10Kmに立地し、4歳から11歳までの全児童数約110名が通う英国国教会系の公立学校（Voluntary Aided：自主（政府補助）学校）である。

周辺環境はオックスフォードの典型的な郊外田園地帯であり、農村景観をなす小規模集落にオックスフォード中心部に通勤するホワイトカラー層が居住する地域である。居住者の所得・学歴が高いなど地域の社会経済状態は恵まれており、無料給食（Free School Meal）対象児童や、「特別な教育的ニーズ（SEN；Special Educational Needs）」のある子どもの比率は英国平均よりかなり低くなっている。ほとんど全てが英国系白人の子どもであり、英国の都市部でみられる多文化化がみられない学校でもある⁹⁾。

2002年には、1999年OfSTEDインスペクション以降の学校運営と学習成果の改善が卓越した学校として実績が表彰されており、2004年のインスペクションでも引き続き高く評価されている。したがって本学校は、模範的な公立学校と位置づけられる。

幼稚部を除く小学校段階のクラスは、KS1（Y1・Y2）では学年毎の編成、KS2では2学年をまとめた複式編成であり、次の4クラスから構成されている。

クラス1：Y1（5－6歳、その他も一部含む）

クラス2：Y2（6－7歳、その他も一部含む）

クラス3：Y3+Y4（7－9歳）

クラス4：Y5+Y6（9－11歳）

表1a アペルトン・プライマリースクール社会系年間指導計画（クラス1・2）

	学期	地理		歴史		PSHE・市民
		A年	B年	A年	B年	A年・B年
クラス1 (F+KS1;Y1)	秋学期	1 身近な地域(1) 島の生活(3)	身近な地域(1)			コミュニケーション・参加スキルの発達(1)
		2		昔の家・生活はどんなようだったか(2)	私たちのおもちゃは昔のおもちゃとどのように違うか(1)	選択(2)
	春学期	1 身近な地域(1)	身近な地域(1)			私たちが助けてくれる人(警官)(4)
		2		私たちのおもちゃは昔のおもちゃとどのように違うか(1)	昔の生活はどんなようだったか(1)	動物と私たち(3)
	夏学期	1 身近な地域を安全にする(2)	身近な地域をどうやって安全にする？(2)			様々な世界で生きる(5)
		2				校庭をつくる(6)
	学期	地理		歴史		PSHE・市民
		A年	B年	A年	B年	A年・B年
クラス2 (KS1;Y1・2)	秋学期	1 島の生活(3)			フローレンス・ナイチンゲール(4)	新しいクラスのコミュニティ、共同、健全な生活スタイル
		2		ロンドン大火(5) 戦没者記念日(1月：上旬)(17)	Guy Fawkes(1605年11月5日)	特別な人である自分、問題の解決、家族と友達
	春学期	1 グローバルな目(17) or 熊のバナナビーは世界のどこにいる(5)	海外の比較地域：メキシコのToluca(22)			友達とは、良い売買と悪い売買、友達づくり
		2				挑戦に直面する、やってみる、こづかいプロジェクト、気持ちの表現
	夏学期	1 海辺へ行(4)			アペルトンの昔はどんなようだった(18)	私たちや私の特別な日、私を助けてくれる人、助けが必要な人
		2	私の身近な地域：人々は何をしている(1の発展)	昔の海辺の休暇はどんなようだった(3)		記憶と成長、言葉のない絵

注) () 内の番号は「単元計画例 (SoW)」の単元番号であるが、記載のないものもある。
収集資料より筆者作成

校長を除く小学校部向け一般教員は4名であり、1名が1クラスをそれぞれ担当している。優れた教師資格とされる「上級能力教員 (AST：Advanced Skills Teacher)」も勤務し、教員の再研修も活発に行われている。

社会系教科・領域の学習内容としては、地理、歴史、PSHE・市民があり、各クラスの年間指導計画は表1abの通りである。上記のように複式のクラス編成がされているため、隔年での計画（A年・B年）が立てられており、調査年度（2006／2007年度）は、A年に沿った授業が行われていた。

本表からまず分かるのは、「単元計画例」を基にした年度計画であり、DfEE・QCAが公開したカリキュラムモデルに類似していることである。地理の年度計画の場合、DfEE・QCAが示した「一般型」カリキュラムモデルを基礎に「位置知識発達型」と「複式学級型」を加味したカリキュラムといえる¹⁰⁾。

教科間の関連として地理と歴史をみると、各学期ではどちらか一

表1b アペルトン・プライマリースクール社会系年間指導計画（クラス3・4）

	学期	地理		歴史		PSHE・市民	
		A年	B年	A年	B年	A年	B年
クラス3 (KS2: Y3・4)	秋学期		身近な地域を調べる(6)	古代エジプト(10)		強い感情への対処。自分と他人をどう述べるか。記憶。他人も感情を持つ	別離の感情。唯一の自分。他人をどう助ける。想像する
					この場所の昔のくらし(18)	ベット。他人を気づかうクラス。お互いに支え合う。野生生物	感情・憂鬱・退屈。幸せて健全な近隣をつくるのは、安全なモノ・場所・人、学校の長
	春学期	ウガンダの村(10)	村をつくった人々(9)			悲しくさせるのは、批判的思考と意思決定。友達とは、友達つくり	よく聞く。安全・危険・不安を感じさせるものは、私が好きな人々、プレッシャーと影響
				ヴァイキング事例学習(6C)		学校をより安全で優しい場所にする手助け。協同を学ぶ。規則	納得しよう。平和的にコンフリクトを解決する。交通安全。節約
	夏学期		環境を改善する(8)	チューダー朝：時代豊かな人と貧しい人		事故とは、その時どうする。特別な人々との連絡網はどう変わる	自信をつける。私を安全にしてくれている仕事をしている人は、私の責任の意味。誰が私たちを助けてくれる
						道路を使う。同じことと違うこと。とても不運な女性。人から論をどう感じる	成長するようなことは、上手くコミュニケーションする。宣伝。交渉すること（ネゴシエート）を学ぶ
クラス4 (KS2: Y5・6)	秋学期	川を調べる(14。カンジス川と関連付け)			ヴィクトリア期時代の子どものくらし(11)	良いこと。議員。収穫。リサイクル。ホームレス	配達。収穫の贈り物。学校。自治体。クラスの規則。ジョン・ラドクリフ・プロジェクト
						ホームレス。メディア。ニュースの中にあるもの(11)	多様な世界に生きる(5)
	春学期	歴史を含んだ地域学習	山の環境(15)	1930年からの変化(地域学習と関連付け)		規則と法はどのように私に作用するか(8)	犯罪の結末(9)
						子どもの権利(7)	どのように区別できるか(4)
	夏学期			チューダー朝：時代調べ	古代ギリシア人とは(14)	薬物教育。上手な自転車の乗り方	上手な自転車の乗り方。地方の民主主義。若い市民
						過ぎる。性教育	過ぎる。性教育

注) () 内の番号は「単元計画例」の単元番号であるが、記載のないものもある。

収集資料より筆者作成

方が実践され、年度全体を見通して両教科が配置されているといえるが、両教科を関連付けた単元もみられる。

クラス1の地理における学習対象は「身近な地域」で一貫している。これに対し歴史の単元は、「昔の家・生活はどんなようだったか」「私たちのおもちゃは昔のおもちゃとどう違うか」といった身近な地域の家・生活・遊びの歴史的次元についてが主要な学習対象であり、有機的関連がある。

クラス3のB年でも、秋学期1は地理「身近な地域を調べる」、秋学期2は歴史「この場所の昔のくらし」、春学期1・2は地理「村をつくった人々」であり、学習内容の系統化が図られている。

クラス4のA年春学期の歴史単元「1930年からの変化」においても、地域学習との関連づけが留意されている。同期間の地理単元は「歴史を含んだ地域学習」であり、実践では地理と歴史の融合的な学習となる。

個別の地理単元では、クラス3のA年春学期に実践される「ウガンダの村」が、特徴ある単元として挙げられる。本単元は、KS2において必修である開発途上国のロカリティについての学習単元である。この必修内容に対応するDfEE・QCA「単元計画例」は単元番号10「インドの村」であり、調査した他の学校ではインドを「単元計画例」にならって扱っている。しかし、本校は国外の学校との交流や教員の海外研修が盛んで、その成果に基づいて単元「ウガンダの村」を開発・実践している。これは、「単元計画例」があくまでも単元開発のモデルであることとともに、本校教員の教材開発能力の高さを示している。

授業での使用教材では、特定のテキストブック使用は認められず、各単元に相応しい市販物を工夫しながら利用している。観察で注目されたのは、クラス1のA年、秋学期として展開中の単元「鳥の生活」の教材である。

「鳥の生活」は、「単元計画例」の単元番号3として例示されているもので、『ナショナル・カリキュラム地理』KS1で規定された遠隔地のロカリティ学習に応える単元にあたる。この単元の教材例としてDfEE・QCAは、Katie Moragの絵本シリーズ¹¹⁾を紹介している。この絵本は、ある小さな島に住むKatie Moragという名前の少女が主人公の物語であり、小学校低学年を主な読者として想定したものである。物語は、仮想の島の生活や事件が舞台となっているが、著者はスコットランドの島に在住であるため、著者の生活・体験に裏付けられている。したがって、スコットランドの小さな島での暮らしが具体的に理解できる内容である。挿絵には、島の典型的な景観や生活が絵地図を交えて描かれており、舞台となっている場所への地理的想像力をかき立てられる絵本である。調査校では、本シリーズ絵本を何冊も揃えるのみならず、想像した島の絵地図などが掲示され、スコットランド島嶼部への関心・興味を喚起する工夫がみられた。さらに地図帳も、初等教育の最初から、各学齢に対応したものが教室に配備されていた。

2.2 ウェスト・オックスフォード・プライマリースクール

本調査校は、オックスフォード市街地西部に位置する1913年設立の公立小学校（Community School）であり、幼稚園部を併設している。立地地域の社会経済環境は平均よりやや低位であり、多様な家庭環境を持つ子どもが在籍してい

る。民族構成をみても、英語を母国語としない子どもが全英の平均以上、難民が少数おり、最大時には17言語の児童が在籍している。教育活動では環境教育が盛んで、エコスクールとして表彰された実績を持つ学校である。

学年編成と調査時の児童数は次の通りである。

幼稚園	ファンデーションクラス（3－5歳）15人	
KS1	クラス1：Y1（5－6歳）	20人
	クラス2：Y2（6－7歳）	20人
KS2	クラス3：Y3+Y4（7－9歳）	28人
	クラス4：Y5+Y6（9－11歳）	25人
合計：108名（小学校部93名、幼稚園15名）		

KS1段階では、学齢毎にクラス編成がされているのに対し、KS2では2学齢をまとめた編成になっている。聞き取りでは、小学校低学年にあたるKS1では、能力差が大きく、きめ細かい指導が必要なため単学齢での編成になっているとされる。なお、幼稚園担任を含め学校長を除く教員は5名であり、学級担任が基本的に全教科を教えている。

表2は、Y2にあたるクラス2の昨年度までの時間割である。水曜日午後に設定されている「人文（Humanities）」が地理学習と歴史学習に相当する。2005年のOfSTEDインスペクションで本校の地理学習は、地図を活用した英国の地誌学習や情報リテラシーを活用学習がみられたとして評価されている。

新年度からは各学期毎に教科横断的な主題を設けたトピックワーク（topic work）が採用され、「人文」は「トピック」に変更されている。クラス2の調査時のトピックは「農場」であり、農場訪問、動物の見学、農場での写生などが組み合わされて進められている。農場訪問の翌日にあたる

観察授業は、大縮尺の農場空中写真を見て、家屋や厩舎を認識することからはじまり、それを紙に表すにはどうしたらよいか学ぶもので、最終的に絵地図の概念理解を目標とする地理授業であった。本授業は、地図への視点変換の学習を、地図学習の入門期にあたる初等教育初期に重視しており、イギリスにおける入門期地図学習論¹²⁾の実践現場での展開と解釈できる。

表2 ウェスト・オックスフォード・プライマリースクールにおけるクラス2（Y2）時間割（2005－2006）

時刻	曜日	月	火	水	木	金
9:10-10:10		リテラシー (60)	リテラシー (60)	リテラシー (60)	リテラシー (60)	リテラシー (60)
10:10-10:25		全校集会 (15)	集会 (15)	クラス集会 (15)	集会 (15)	PSHE (15)
10:25-10:40		休憩				
10:40-12:00		ヌメラシー (50)	ドラマ (25)	ハンド・ライティング (25)	ミュージック・スキル (25)	ヌメラシー (50)
		リーディング (25)	ヌメラシー (50)	ヌメラシー (50)	ヌメラシー (50)	合唱集会 (20)
12:00-13:05		昼食・出欠確認				
13:05-15:00		体育 (55)	理科 (90)	体育 (35)	音楽 (30)	芸術デザイン (100)
		宗教 (60)		人文 (90)	PSHE (30)	
			ICT (25)		ICT (30)	フランス語 (30)
15:00-15:15		物語	物語			物語

注) 教科・活動名の後の()内は配当時間(分)で、時刻とは必ずしも一致しない

収集資料より筆者作成

2. 3 ボトリー・プライマリースクール

本調査校は、オックスフォード市街地周辺部に位置する全校約220名の公立小学校（Community School）であり、調査校4校の中では最大規模の学校である。「特別な教育的ニーズのある子ども」の比率は全英平均よりやや高いものの、無料給食対象児童は平均より低く、地域の社会経済的状況はほぼ平均といえる。民族的にはほとんど全ての児童が英国人であるが、非英国系白人やアジア・中国系などの児童がわずかにおり、何人かの生徒は英語を母国語とはしていない。広いグラウンドと整備された校舎を擁し、都市周辺の住宅地域に立地する平均的な公立学校と位置づけられる。

学級は以下の全8クラスから編成されている。

ローワースクール：クラス1・2：Y1+Y2（5－7歳、幼稚園も一部含む）	3クラス
アップースクール：クラス3・4：Y3+Y4（7－9歳）	2クラス
：クラス5・6：Y5+Y6（9－11歳）	3クラス

ここで注意されるのは各学齢毎にクラス編成できる規模でありながら、複数学年をまとめてクラス編成し¹³⁾、学級担任が基本的に全教科の授業を行っていることである。

表3は、クラス5・6（Y5・6）にあたる1クラスの時間割である。本時間割で地理は、月曜午後にある「トピック」に歴史とともに位置付けられており、トピックワークによる学習として掲載されている。したがって、地理と歴史が融合したカリキュラムである。しかし、教室に地球儀や地図などの地理教材がおかれた資料コーナーが設置さ

れ、廊下にも児童が作成した年表や地図が掲示されていた。観察した授業も空間認識の初歩が丁寧に扱われており、地理・歴史の学習は適切になされていると推察される¹⁴⁾。本校では、郊外学習が積極的に行われており、調査時にも地元の博物館訪問がされていた他、Y6生にはウェールズのガワー半島にあるフィールド・スタディ・センターで1週間のフィールドワークが実施されている。

表3 ボタリー・プライマリースクール クラスY5／6 時間割 (2006—2007)

時刻・曜日	月	火	水	木	金
8:45-9:10	出欠確認等				
9:10-10:10	リテラシー (60)	算数 (60)	算数 (60)	算数 (60)	集会 (60)
10:10-10:30	集会 (20)				リテラシー (20)
10:30-10:50	休憩 (20)				
10:50-11:20	リーディング・スプリング (30)	リテラシー (30)	リテラシー (30)	理科 (30)	リーディング・スプリング (30)
11:20-12:15	算数 (55)	ハンド・ライティング (55)	PSHE (55)	音楽 (55)	算数 (55)
12:15-13:15	昼食				
13:15-14:15	トピック (地歴, 60)	体育 (60)	芸術・デザイン (120)	ラグビー (60)	理科 (60)
14:15-15:15	体育 (60)	ICT (60)		宗教 (60)	ICT (60)

注) 教科・活動名の後の () 内は想定される配当時間 (分)。

収集資料より筆者作成

3 私立小学校における地理授業実態

私立学校は、法的には「ナショナル・カリキュラム」制度の適用を受けず、公立学校とは異なる状況下にある。本節では、ロンドン市内の私立学校であるノッティングヒル・プレパトリースクールについて報告する。

ノッティングヒル・プレパトリースクールは、2003年創設の新しい私立学校 (Independent School) である。立地地域は、ロンドン・ウエストミンスター区西隣ケンジントン・カムデン区内のノッティングヒル地域である。ノッティングヒル地域は、所得・学歴が高い階層の居住者が多い高級住宅地である。児童の多くはノッティングヒル地域在住であり、全児童の約13%が海外在住経験を持つなど、地域の社会経済階層を反映している。

在学者は5歳から13歳の約100名であり、次のように学齢毎のクラス編成がなされている。

ローワースクール：	F (幼稚園で5歳未満)
	Y1 (5-6歳), 2クラス編成
	Y2 (6-7歳), 2クラス編成
ミドルスクール：	Y3 (7-8歳)
	Y4 (8-9歳)
	Y5 (9-10歳)
	Y6 (10-11歳)
アップパースクール：	Y7 (11-12歳)
	Y8 (12-13歳)

本校では幼稚園の入学は抽選であるが、その後の学年別入学では試験が課されるため、入学時の児童の能力は比較的高い。1学年の人数は、学年により差が大きい、平均15名程度 (最大でも20名未満) である。KS1のY1とY2段階は、1学年が2クラスに細分され、より少人数の指導となっている。KS2であるミドルスクール課程が終了した時点、もしくはアップパースクール課程が終わった時点でグラマースクール等の上級学校への進学を前提とした教育を実施しており、入学を希望する保護者が多い人気校である。学校の性格として本調査校は、大都市部の進学対応型私立小学校と位置づけられる。

学習指導体制では、ローワースクール段階では学級担任により全教科が指導されるが、ミドルスクール段階以降は教科担任制がとられ、何人かの非常勤講師を採用している。地理も非常勤講師が担当しているが、担当者は地理学を大学で専攻し、中等学校地理教師免許 (PGCE (Geography)) を取得した地理の専門教師である。

表4は、幼稚園を除いた全学年の1週間の時間割である¹⁵⁾。Y5以降は午後4時まで授業があるなど授業時間数は多い。全体的には、リテラシー、ヌメラシーが重視されているほか、フランス語に加えラテン語も教授されている。

表4をもとに、各学年における地理と歴史の週当たりの時間数を、算出したものが表5である。両表からは、両教科がKS1・KS2を通して独立教科として時間割に組み込まれるとともに、平均して1時間30分から2時間が配当されていることが分かる。

地理科の年間指導計画は、表6のようにまとめられる。年間指導計画における教授学習内容は、内容、場所、地図技能の3領域に区分することができるため、同表では学年ごとに3項目に分けて示している。

表中の項目「内容」は、単元名でもある。この単元名は、DfEE・QCA「単元計画例」から選択されたものが多

表4 ノッティングヒル・プレパラトリースクール時間割(2005/6年度秋学期)

月曜	9:00-9:30	9:30-10:00	10:00-10:30	10:30-11:00	11:00-11:30	11:30-12:00	12:00-12:30	12:30-1:00	1:00-1:30	1:30-2:00	2:00-2:30	2:30-3:00	3:00-3:30	3:30-4:00
Y1	リテラシー		休憩	ヌメラシー	ドラマ	昼食	遊び	フランス語	ICT	音楽	地理			
Y2	ヌメラシー		ICT	休憩	水泳	遊び	昼食	リテラシー		地理				
Y3	ヌメラシー		PSHE	休憩	リテラシー			歴史		水泳	地理			
Y4	リテラシー		ヌメラシー	休憩	歴史	芸術		昼食	遊び	自由	水泳	フランス語	歴史	
Y5	理科		英語	宗教	算数	音楽		昼食	遊び	PSHE	水泳	11+		
Y6	算数		フランス語		ラテン語	英語		昼食	遊び	PSHE	水泳	13+		
Y7&Y8	英語		地理		フランス語	数学		昼食	遊び	PSHE	水泳	13+		
火曜	9:00-9:30	9:30-10:00	10:00-10:30	10:30-11:00	11:00-11:30	11:30-12:00	12:00-12:30	12:30-1:00	1:00-1:30	1:30-2:00	2:00-2:30	2:30-3:00	3:00-3:30	3:30-4:00
Y1	リテラシー		休憩	ヌメラシー	学活	昼食	遊び	宗教	理科	水泳				
Y2	リテラシー		音楽	休憩	ヌメラシー	遊び	昼食	芸術		PSHE				
Y3	音楽	ドラマ	R/ICT	休憩	リテラシー			理科		ヌメラシー	宗教			
Y4	地理		ヌメラシー	休憩	リテラシー	ドラマ		昼食	遊び	理科	宗教			
Y5	英語		算数	ラテン語	休憩	理科	宗教	昼食	遊び	地理	体育			
Y6	体育		歴史		休憩	フランス語	地理	昼食	遊び	算数	理科			
Y7&Y8	体育		歴史		休憩	ラテン語	算数	昼食	遊び	英語	地理			
水曜	9:00-9:30	9:30-10:00	10:00-10:30	10:30-11:00	11:00-11:30	11:30-12:00	12:00-12:30	12:30-1:00	1:00-1:30	1:30-2:00	2:00-2:30	2:30-3:00	3:00-3:30	3:30-4:00
Y1	リテラシー		休憩	宗教	体育	理科	昼食	遊び	ヌメラシー	芸術				
Y2	ヌメラシー		ドラマ	休憩	リテラシー	遊び	昼食	歴史	音楽	ゲーム				
Y3	フランス語		リテラシー	休憩	ヌメラシー			歴史	音楽	ゲーム				
Y4	宗教	R/ICT	リテラシー	休憩	ヌメラシー	歴史		昼食	遊び	ゲーム				
Y5	理科		フランス語	休憩	リーディング	算数		昼食	遊び	ドラマ	英語	歴史		
Y6	宗教		英語	休憩	ドラマ	歴史	ICT	昼食	遊び	地理	芸術	算数		
Y7&Y8	算数		理科	休憩	ドラマ	歴史	ICT	昼食	遊び	英語	芸術	フランス語		
木曜	9:00-9:30	9:30-10:00	10:00-10:30	10:30-11:00	11:00-11:30	11:30-12:00	12:00-12:30	12:30-1:00	1:00-1:30	1:30-2:00	2:00-2:30	2:30-3:00	3:00-3:30	3:30-4:00
Y1	リテラシー		休憩	ヌメラシー	歴史	昼食	遊び	地理	ゲーム	学活				
Y2	リテラシー		宗教	休憩	ヌメラシー	遊び	昼食	歴史	ゲーム					
Y3	リテラシー		宗教	休憩	体育	遊び	昼食	地理	ヌメラシー	フランス語				
Y4	理科		芸術	休憩	フランス語	ヌメラシー		昼食	遊び	リテラシー	地理			
Y5	英語		地理	休憩	推論	ラテン語	フランス語	昼食	遊び	算数	歴史			
Y6	算数		英語	休憩	地理	音楽		昼食	遊び	理科	推論	ラテン語		
Y7&Y8	フランス語		理科	休憩	ラテン語	音楽		昼食	遊び	英語	宗教	算数		
金曜	9:00-9:30	9:30-10:00	10:00-10:30	10:30-11:00	11:00-11:30	11:30-12:00	12:00-12:30	12:30-1:00	1:00-1:30	1:30-2:00	2:00-2:30	2:30-3:00	3:00-3:30	3:30-4:00
Y1	リテラシー		休憩	PSHE	体育	音楽	昼食	遊び	ヌメラシー	歴史	学活			
Y2	ヌメラシー		宗教	休憩	リテラシー	遊び	昼食	体育	フランス語	ICT				
Y3	リテラシー		R/ICT	休憩	理科			ヌメラシー	芸術					
Y4	ヌメラシー		音楽	休憩	体育	PSHE		昼食	遊び	リテラシー	R/ICT			
Y5	フランス語		芸術	休憩	算数	PSHE		昼食	遊び	英語	ゲーム			
Y6	英語		算数	休憩	フランス語	理科		昼食	遊び	歴史	ゲーム			
Y7&Y8	算数		理科	休憩	英語	宗教	ラテン語	昼食	遊び	歴史	ゲーム			

注) 幼稚園は省略し、2クラスあるY1・Y2学年は1クラスのみ取り上げた。

Y7とY8は少人数のため一緒になっている。

収集資料より筆者作成

表5 ノッティングヒル・プレパラトリースクールにおける地理・歴史の週時間数

学年	地理	歴史
Y1	1:00	1:00
Y2	2:30	2:00
Y3	1:30	1:30
Y4	1:30	1:30
Y5	2:00	2:00
Y6	2:00	2:00
Y7・Y8	2:00	2:00

注) 時間は「時：分」

く、本私立学校でも公立学校同様「単元計画例」をかなり参考にしてカリキュラムが編成されているといえる。

しかし、DfEE・QCAカリキュラムモデルにおける標準的な学年配当と比べた場合、より高学年段階の単元を、前倒しして学習している。例えば、Y3春学期の「山の環境」はY6が標準学年である他、Y5秋学期後半の「水害」並びにY6の全単元はKS3(Y7以降)が標準である。

さらに、自主開発の単元もみられる。Y4秋学期後半「ヨーロッパ」は自主開発単元である。授業観察によれば本単元は、個々人の調査に基づくヨーロッパ地誌学習である。各児童は、ヨーロッパの国をそれぞれ選択し、地図帳を含む地理情報媒体を集めて国の様子を調べ、パンフレットにまとめる。情報の収集、分析、総合、表現能力を培うとともに、最終的にはヨーロッパ地誌の理解

も求められている単元である。

本「ヨーロッパ」単元からうかがえる本校での地誌理解の重視は、表6の項目「場所」の内容から明確に読み取

表6 ノッティングヒル・プレパラトリースクール地理科年間指導計画（2005／6年度）

学年		Y 2			Y 3			Y 4			Y 5			Y 6		
学期		内容	場所	地図技能	内容	場所	地図技能	内容	場所	地図技能	内容	場所	地図技能	内容	場所	地図技能
秋学期	1	世界中の天気(7)P	大陸	記号、色、題名、枠、北	インドの村(10)H	大陸、インドの自然地理	記号と視点	水(11)P	大陸、大洋、岬		川を調べる(5)P・フィールドワーク	川・海・海峡・湖	OS地図記号と地名	KS3海岸の環境(8)P・フィールドワーク		海岸域のOS図の等高線・崖など
	2		大陸・大洋・岬	記号			写真からのスケッチ、4方位	ヨーロッパ、H	ヨーロッパの国と首都		KS3水害(4)P、E		川の地図づくり、図上川下り	KS3地理とは何か、H	英国	
春学期	3	村をつくった人々(9)H		平面地図	山の環境(15)P	大陸、山脈	スキー場の地図と記号	あなたはエコフレンドリーか、P			St. Lucia(22)H	カリブ海地域	土地利用	KS3の地図技能	アフリカ	OS図からの断面図やスケッチ
	4			簡易な空中写真、記号化			集落のパターン	大通りは自動車を閉め出すべきか(12)E		OS都市域図、土地利用			4桁6桁座標系	KS3(エコ)ツーリズム	ケニア	土地利用
夏学期	5	身近な地域調べ(6)E	地域のレジャーセンター	空中写真・経路をなぞる	窓から見える環境を改善する(21)E	英国構成国と首都	平面化の視点、OS都市域図の記号	英国内の比較地域(13)H		OS農村域図の記号、写真のOS地図への定位、4桁座標系	環境問題(20)E		フィールドスケッチ地図、簡単なOS地図からのスケッチ作成	KS3持続可能な開発	英国の国立公園、ヨーロッパ	サイトマップ・景観図を描く
	6		学校周辺	学校への経路を描く			空中写真、座標系		複雑な空中写真からのスケッチ地図、8方位、経路		地図技能・オリエンテーリング		距離・起伏、経路をたどる	KS3人口	ヨーロッパ、ケニア	コロプレスマップ、座標系

注) 内容の, () は「単元計画例」の単元番号を, P は自然地理, H は人文地理, E は探究単元を示す。
薄い網がけはKS1・2、濃い網がけはKS3が標準の単元、網がけなしは学校開発単元を示す。

収集資料より筆者作成（Y1は不明）

ることができる。Y2の段階では、世界の大陸、大洋、主要な岬の理解が求められ、Y3以降も世界の山脈、英国、ヨーロッパなど各単元で地誌的理解を深めることが繰り返し計画されている。観察したY2授業では、コンピュータを使った大陸名当てクイズを活用した学習がされていた。Y5の授業も、バングラデシュの洪水をコンピュータも使いながら調べた後、クラス全体で洪水の功罪を論じるものであったが、最初は「バングラデシュはどんな国か」との発問からはじまり、位置・周辺の国々・自然環境などの基本的な地誌的理解を確実にふまえるように配慮された授業展開であった。

表6中の項目「地図技能」の配列からは、初等地図学習の系統性¹⁶⁾を強く意識し指導計画が作成されていることも読み取れる。観察したY7・Y8向け地理授業は上級学校進学試験向けでもあることから、それまで学んだ地図・地理学習の総合演習であり、QS地図を使った課題内容はかなり高度なものであった。

ところで、表6中の項目「内容」において単元内容は、人文地理（H）、自然地理（P）、探究（E）の3類型にも区分されている。この区分は相対的なものであるが、どのような内容に重点をおくかが理解される。このうち探究（E）は、内容自体よりも学習過程による分類であり、探究単元として計画されているのは、Y2夏学期「身近な地域調べ」、Y3夏学期「窓から見える環境を改善する」、Y4春学期「大通りは自動車を閉め出すべきか」、Y5秋学期「水害」および夏学期「環境問題」である。聞き取りによれば、探究学習は常にできるものではなく、適切な特定の単元・時期の授業で実施されるとのことであった。本地理科カリキュラムでは探究単元が、Y2とY3では学年の最後の単元として設定されており、Y4とY5でも学年もしくは学期の後半に配置される傾向がある。このような配置は、それまでの学習の積み重ねを基礎にすることで適切な探究学習が成立するとの考え方の反映である。なお、Y6に探

究単元がみられないのは、ミドルスクール課程修了後の進学のための入学試験準備のためである。したがって、Y5に2つの探究単元が配置されていることはY6における同単元の代替、Y5とY6の秋学期双方のフィールドワーク単元設定は試験対応ともいえる¹⁷⁾。

以上のように本調査校は一般の公立学校と異なる点も多いが、地理授業に関してみると、初等・中等地理学習内容の構造と系統性を強く意識した実践がなされているといえる。

4 調査校における地理授業実践の特徴

今回調査した初等学校4校においては、地理をはじめとした社会系年間指導計画から個別の授業案作成にいたるまで、教育雇用省・資格カリキュラム局による「単元計画例」が参考にされており、その影響力は極めて大きいといえる。しかし、「単元計画例」はあくまでも参考であり、単元開発を含めた学校の教育課程編成やカリキュラム開発は各校の独自性・自主性に委ねられていたため、公立・私立の別のみならず、公立学校間でも地理授業実践は多様である。したがって、学校の独自性・自主性に基づく多様性が最大の特徴であるが、さらに次のような特徴も指摘できる。

第1に、学校規模では100人前後の比較的小規模な学校が多く、公立校のKS2段階ではY3とY4、Y5とY6をまとめた複式の学級編成が一般的であった。したがって、「ナショナル・カリキュラム」制度における2年から4年をまとめたKS区分の方式や、「単元計画例」における幅を持たせた標準学年の提示方式は、これら実態に適合したものであると理解される。

第2に、公立学校では、地理科・歴史科を統合した人文科、さらには特定の主題の下で他教科との関連付けも重視した教科横断的な学習であるトピックワークの中で地理学習を進める傾向がうかがえた¹⁸⁾。これは、上記のようにカリキュラムや時間割が、学校の状況に応じて柔軟に編成されていることから可能になることである。私立学校では、公立学校でうかがえた上記傾向とは逆に、地理科・歴史科が独立教科として時間割上明確に扱われ、教科担任制も採用されている。なお、時間割をみると、リテラシー等を含む英語、ヌメラシー等を含む算数という学力向上を強く求められている中核科目を重視した時間配当とそれらの午前への配置が目立つ一方、地理・歴史・人文等は午後に配置される傾向が全体的にみられる。

第3に、地理授業においては、特定教材のコースブック的使用¹⁹⁾はみられず、地理学協会をはじめとした各組織・会社が提供する教材が、単元と学校状況に応じて適宜選択されている。地図帳も、初等教育のはじめ(KS1)から、発達段階を考慮した複数の教材が配備されている。

第4に、地理科学習のみならずトピックワーク的な地理学習においても授業では、地図、空中写真、さらには人形や建物ミニチュアなどの玩具を用いた体験・作業を行うことで、児童の空間認識能力を高める場面がみられた。これら体験・作業を通して、ローカルからグローバルにわたる様々なスケールでの地理認識育成を、初等教育の早い段階から企図しているといえる。

以上のような初等地理授業実践の実態は、日本のイギリス地理教育研究における新たな知見である。継続的な現地調査並びにイギリス地理教育研究者の臨床的研究成果の渉猟をもとに、これら実態のイギリス初等学校における普遍性と意味を検証することが今後の課題である。

謝辞

本稿は、平成17-18年度科学研究費補助金(基盤C17500708)「地理教育からみた地理的技能・学力の構造の解明と向上のための授業開発」(研究代表者田部俊充)の成果の一部である。現地調査にあたっては、ロンドン大学教育研究大学院のA.Kent,S.Sheila,D.Mitchell先生をはじめとした地理教育学教室スタッフ、Oxford Brooks University教育学部のS.Catling先生、並びに調査校の先生方に大変お世話になった。ここに記し感謝申し上げます。

注・引用文献

- 1) 正式にはイングランドであるが、先行研究をはじめ一般的にイギリスと称されるため、本稿もイギリスと表記する。
- 2) 志村喬(2003):「ナショナル・カリキュラム地理」改訂にみる初等・中等地理カリキュラム編成原理—地誌的学習内容の変更を中心に。上越教育大学研究紀要, 23(1), 225-243, 志村喬(2004):英国『ナショナル・カリキュラム(2000年版)』開発とジオグラフィカル・スキル。地理科学, 59(3), 149-156。
- 3) 飯田誠(1984):イングランドにおける中等地理教育の実践形態。新地理, 31(4), 41-48。
- 4) 荒井正剛(2005):中学校社会科地理的分野における外国地誌学習のあり方—イギリスの地理教育を参考にして—。新地

- 理, 53(3), 1-19.
- 5) 次の研究は、現地調査により社会科関連科目の初等学校での実態を検討しているが、カリキュラム次元であり、授業観察に基づく分析はみられない。岩田一彦（2007）：市民的資質形成のためのカリキュラム構成と教科内容構成ーイギリスの市民性教育（Citizenship Education）カリキュラムと教員養成の検討を通してー。兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科『連合研究科共同研究プロジェクトE（平成17-19年度）中間報告書 教育実践学の理論構築及びモデル研究』3-9.
 - 6) DES（Department of Education and Science）（1989）：*Aspect of Primary Education, The teaching and learning of History and Geography*. HMSO, London.
 - 7) DfEE（Department of Education and Employment） and QCA（Qualifications of Curriculum Authority）（1998）：*Geography Teacher's Guide, A scheme of work for key stage 1 and 2*. QCA Publications, Suffolk. DfEE（Department of Education and Employment） and QCA（Qualifications of Curriculum Authority）（2000）：*Geography Teacher's Guide, Update, A scheme of work for key stage 1 and 2*. QCA Publications, Suffolk.
 - 8) 馬場勝（2003）：イギリス初等単元計画例示案（「スキーム・初等地理」）の構成原理。社会系教科教育学研究, 15, 13-20. 馬場勝（2004）：イギリス初等地理単元計画例示案（「スキーム・初等地理」）の内容知と方法知の構成。社会科研究 61, 31-40.
 - 9) 学校長は、uni-cultural school と表現していた。
 - 10) 「単元計画例」に提示されている標準的な学年配当のモデルには、「一般型」の他、「環境理解重視型」「理科関連重視型」「位置知識発達型」「複式学級型」がある。
 - 11) Hedderwick, M. (1984): *Katie Morag Delivers the Mail*. Bodley Head など。
 - 12) 志村喬（2005）：初等地図学習教材 Mapstart シリーズにおける系統性の分析的研究。上越教育大学研究紀要, 25(1), 105-115.
 - 13) イギリス初等教育では、ファミリーシステムと称される複式学級編成が伝統的に多かった。現在は教育改革の影響も加わり、複式学級が日本に比べ依然多いと現地調査報告されている。後藤貞郎（2004）：元小学校教師12年ぶりのイギリス滞在。日英教育学会ニューズレター, 23.
 - 14) OfSTED の2005年のインスペクションでも、地理学習は『ナショナル・カリキュラム地理』に適応したトピックが選択され、効果をあげていると評価されている。
 - 15) 調査時である2005/2006年度秋学期の時間割であり、その他の学期や年間の時間割・時数を保証するものではない。
 - 16) 前掲12)
 - 17) フィールドワーク、探究学習、地域調査はここ10年以上にわたり政府から重視されており、一般的な学力認定試験である GCSE 等ではフィールドワークが組み込まれている。Scoffhan, S. (ed.) (2004): *Primary Geography Handbook*. Geographical Association, Sheffield.
 - 18) QCA（2002）が地理を独立した授業時間として明記する時間割を例示する一方、DfES（2003, p.12）はカリキュラム・時間割の再考や教科横断的な学習を薦めており、総じて学校毎の自由度が増している。QCA（Qualifications of Curriculum Authority）（2002）：*Designing and Timetabling the Primary Curriculum; A practical guide for key stages 1 and 2*. QCA Publications, Suffolk. DfES（Department of Education and Skills）（2003）：*Excellence and Enjoyment; A strategy for primary schools*. DfES Publications, Nottingham.
 - 19) テキストブックと称される書籍教材は、日本の教科書のように年間を通じて使用されるコースブック、特定単元で利用されるクラスセット、その他の方式で利用されるその他テキストブックの3類型に区分される。志村喬（2003）：イギリスにおける地理テキストブック研究の進展。上越社会研究, 18, 3-10.

参考文献

- 志村喬（2003）：イギリスにおける地理教育の動向と課題。村山祐司編『21世紀の地理ー新しい地理教育ー』朝倉書店, 145-160.

A Survey of Geography Lesson Practices in English Primary Schools

Takashi SHIMURA *

ABSTRACT

Geography lesson practices in English primary schools have not been researched in Japanese geography education researcher. Author have carried out pioneering survey of practices at 4 English primary schools from 2005. This reveals that all schools refer and adapt DfEE/QCA Scheme of Works Geography, but not adopt it as is. Schools make a choice among Scheme of Works according to their environment, and these organize diversity of curriculum and lesson.

In geography lessons, there are no course book, various textbooks, maps, and resources these correspond with developmental stages are used. Some state schools have tendency to adapt cross curriculum that show topic work or integration of geography and history.

* Division of Social Studies, Department of Humanities and Social Sciences